

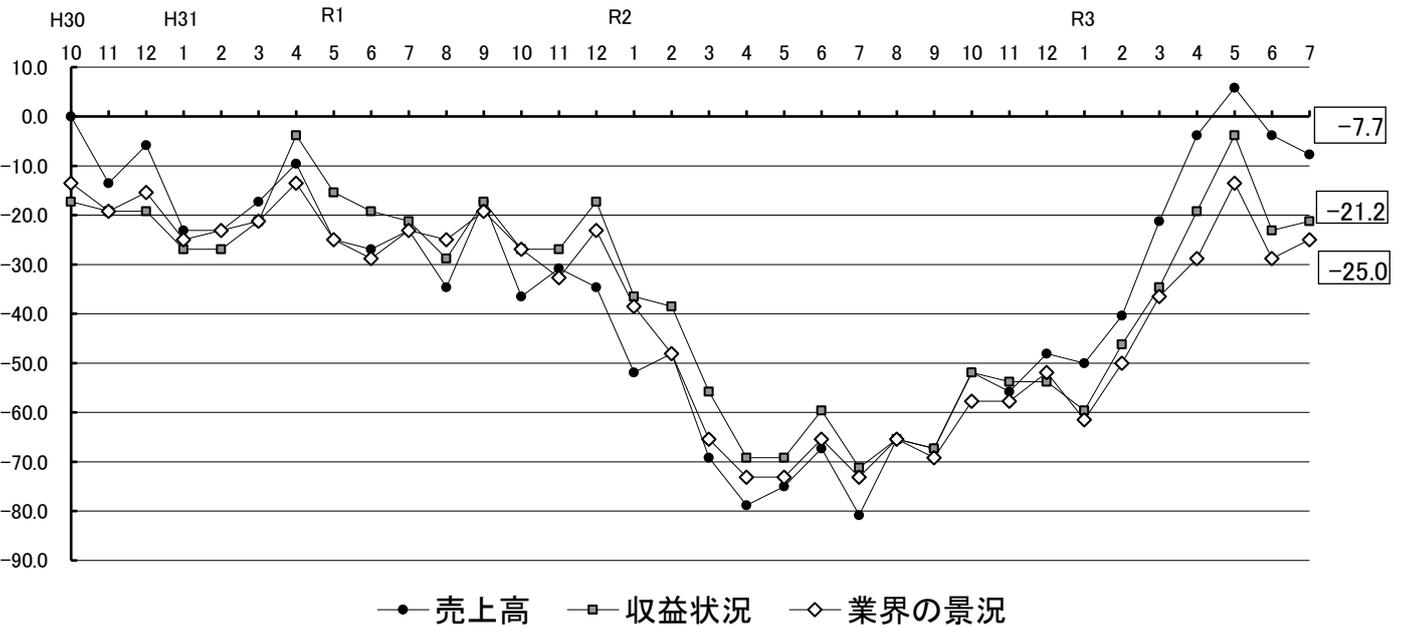
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和3年7月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標は「収益状況」「業界の景況」が上昇、「売上高」が下降した。
- 製造業で「印刷」「木材・木製品」、非製造業で「小売業(飲食業)」「サービス業」で特に厳しい状況。
- 新型コロナウイルスの収束は依然として見通せず、長期化の様相が続いている。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-7.7	-3.9	-10.6	+2.0
収益状況	-21.2	+1.9	-27.4	+0.6
業界の景況	-25.0	+3.8	-28.5	+2.9

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より3.9ポイント低下し、-7.7ポイントとなった。全国においては、前月より2.0ポイント上昇し、-10.6ポイントとなった。

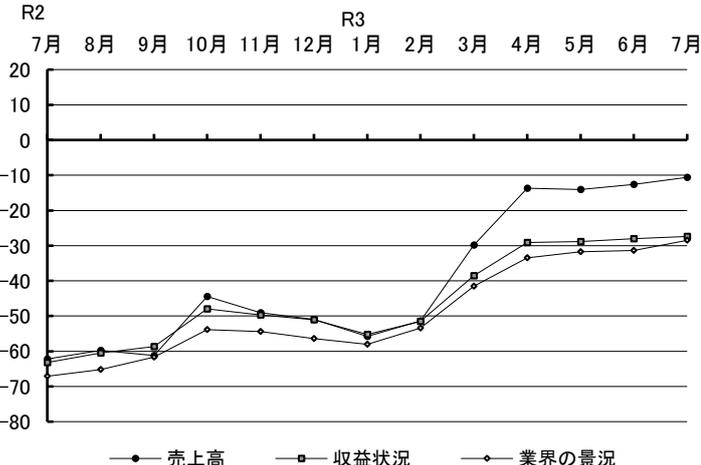
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より1.9ポイント上昇し、-21.2ポイントとなった。全国においては、前月より0.6ポイント上昇し、-27.4ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より3.8ポイント上昇し、-25.0ポイントとなった。全国においては、前月より2.9ポイント上昇し、-28.5ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概 況-

7月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中7指標が上昇した。主要3指標は「売上高」が3.9ポイント低下、「収益状況」が1.9ポイント上昇、「業界の景況」が3.8ポイント上昇となった。原材料の高騰・部品の調達不安等の声（特に木材・木製品業）が依然として寄せられている。また、コロナ第5波や新たな変異株の流行、ワクチン接種完了時期が不透明などの不安要素が多く、先行きの見通しは依然として厳しい。

業種別・指標別にみると、製造業全体では「売上高」が好転した。しかし、「木材・木製品」は「在庫状況」が-75ポイント、「印刷」は「売上高」が上昇したものの、「業界の景況」は-100ポイントと依然厳しい状況を示している。非製造業全体では、主要3指標が上昇したが、特に「小売業(飲食業)」「サービス業」「運輸業」等では依然としてマイナス状態が続いている。

当月は、前月よりも収益状況と業界の景況が若干だが上昇した。各業界からは、新型コロナウイルスに加え気温の影響や、取引先からの受注数大幅減少、原材料の仕入れが困難などの厳しい報告が続いている。感染力の高いデルタ株の感染拡大が全国的に広まり、予断を許さない状況には変わりはない。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-50.0	0.0	0.0	-25.0	-75.0	-25.0	-25.0	0.0	-50.0
繊維・同製品	-25.0	-50.0	-50.0	-50.0	-50.0	-50.0	0.0	-25.0	-25.0
木材・木製品	25.0	-75.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	-25.0	-75.0
印刷	100.0	-100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-100.0
窯業・土石	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鉄鋼・金属	0.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0
一般機器	50.0	25.0	25.0	0.0	25.0	50.0	50.0	0.0	50.0
製造業	4.0	-20.0	8.0	-12.0	-16.0	-8.0	4.0	-12.0	-24.0
卸売業	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0		0.0	33.3
小売業	-71.4	-28.6	14.3	-28.6	-57.1	-42.9		-14.3	-71.4
サービス業	-16.7		-16.7	-16.7	-66.7	-50.0		16.7	-16.7
建設業	-20.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	-20.0
運輸業	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	-50.0
その他	50.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	50.0
非製造業	-18.5	-20.0	0.0	-11.1	-25.9	-22.2		0.0	-25.9
全体	-7.7	-20.0	3.8	-11.5	-21.2	-15.4	4.0	-5.8	-25.0

図表2 【指標別DI値の推移】

	2年							3年							前月比
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月		
売上高	-80.8	-65.4	-67.3	-51.9	-55.8	-48.1	-50.0	-40.4	-21.2	-3.8	5.8	-3.8	-7.7	-3.9	
在庫数量	-17.1	-17.1	-20.0	-22.9	-22.9	-25.7	-14.3	-8.6	-11.4	-20.0	-17.1	-14.3	-20.0	-5.7	
販売価格	-7.7	-7.7	-5.8	-7.7	-11.5	-7.7	-13.5	-9.6	-3.8	-3.8	3.8	-5.8	3.8	9.6	
取引条件	-15.4	-21.2	-23.1	-21.2	-19.2	-19.2	-15.4	-17.3	-11.5	-9.6	-9.6	-15.4	-11.5	3.9	
収益状況	-71.2	-65.4	-67.3	-51.9	-53.8	-53.8	-59.6	-46.2	-34.6	-19.2	-3.8	-23.1	-21.2	1.9	
資金繰り	-51.9	-48.1	-42.3	-28.8	-26.9	-26.9	-26.9	-26.9	-19.2	-9.6	-13.5	-21.2	-15.4	5.8	
設備操業度	-68.0	-56.0	-52.0	-40.0	-48.0	-32.0	-36.0	-24.0	-20.0	-12.0	12.0	0	4	4.0	
雇用人員	-15.4	-9.6	-15.4	-9.6	-11.5	-11.5	-13.5	-11.5	-9.6	-11.5	-11.5	-11.5	-5.8	5.7	
業界の景況	-73.1	-65.4	-69.2	-57.7	-57.7	-51.9	-61.5	-50.0	-36.5	-28.8	-13.5	-28.8	-25.0	3.8	

特記事項

情報連絡員報告（令和3年7月分）

具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
和洋菓子製造業	前年と比べると、あまり変わらないがコロナ前からはまだ回復していない。業界的には、この暑さとオリンピック（テレビ観戦）で人出が少なく感じる。
あん類製造業	オリンピックによる需要、景気の変化は今のところないようで良くなる気配はない。
縫製業	秋物商品の受注は8月までの生産分が昨年の60%位でその後の予定が見えない。9月以降の厳しさがより強くなりそう。
網・レース・ 繊維粗製品製造業	類似製品（トーションレース以外のレース）の動きが鈍く、当組合の製品に代替使用される動きが増えて来た。背景には収益状況の悪化からリスクを持って在庫を抱えない方針が強いらしく、生産ロット、納期等、生産管理のハードルが上がっている模様。
一般製材業	ロックダウンによる労働力低下を起因とした製材不足、また物流に欠かせないコンテナ、船舶が足りない状況で輸入材が入っていない現状（ウッドショック）がまだまだ改善されず、在庫を確保する事が非常に困難な状態である。
建具製造業	ウッドショックと喧伝される、木材・木質材料の不足と高騰が続いている。
印刷業	コロナ禍で加速した紙の減少で折りこみチラシが昨年度より打撃を受けている。折りこみチラシの依頼先を新たに発掘し、今の時代にあった発信の仕方やチラシの作り方を考えていく必要性があると思われる。
石灰製造業	7月分については、前月同様の出荷傾向となった。鉄鋼向けは、順調に出荷している。増加傾向となっている。肥料関係は、昨年同様の出荷となった。建材関係は、碎石、土質共に減少傾向。全体では、前年並みとなった。
窯業・土石製品製造業	第1四半期の出荷量（4月～6月）は、昨年同期比で8.8%減少しており、低調である。
金属製品製造業	売上高が増加したが、金属地金が高騰しているため、収益が上がらない。
金属製品製造業	自動車部品、機械設備、プレス金型関連とも業況は低下している。主な原因はコロナ禍による売上低下、人件費増加、人手不足。
一般機械器具製造業	令和3年7月の報告は前年同月と比較し、売上高等はほぼ同等の水準となっているが、収益悪化企業はやや増えている。懸念はあるものの、企業努力により前年同期と同水準や増加傾向企業もあり、これ以上の悪化は回避できている。操業度についても前年同時期の水準である。仕入れ資材の高騰が続いており、今後の動向に注視している。
一般機械器具製造業	首都圏に発出された緊急事態宣言や県内に指定されたまん延防止等重点措置により再度、取引先からの受注減少に伴う業績悪化が懸念される。
各種商品卸売業	当団地組合では、引き続き新型コロナウイルスの影響を受けているが、全体として売上高、収益状況、業況等は前年同期に比べ改善傾向にある。新型コロナウイルスの感染状況悪化が気掛かりである。

食肉小売業	アメリカ・中国ではワクチン接種が広がり、規制が徐々に解除され外出・外食の機会が増加している。国内需要が増え価格が上がっている為、輸入価格が上昇している。
各種商品小売業	先行きを見ると、ワクチンがある程度普及するまでは感染拡大を理由に経済活動自粛の傾向があり、個人消費の回復が遅れ厳しい状況である。
花・植木小売業	毎年この時期は花の痛みが早いため、店頭での動きは鈍い。結婚式はオフシーズン、大きなイベントもなく、加えてコロナの影響から厳しい状況が続いている。市況は昨年対比で入荷量は105%～110%、平均単価は90～95%程で推移した。
旅館・ホテル	宿泊に関して、東京オリンピックの事前キャンプは当初の予定よりも大幅に減少となり、夏の行楽シーズン目前での感染爆発により様々な予約が消滅している。飲食店舗も蔓延防止措置により急降下してきている。
給食センター	新型コロナウイルスの影響もあるが、売上高は、新規事業である惣菜の製造販売により前年同月より増加傾向にある。しかし、このままコロナが終息しない場合は、収益・資金とも悪化していくと思われる。
建設業	木材の価格高騰及び手配がつかなく、特に建築において悪影響を及ぼしている。
貨物軽自動車運送業	半導体不足の影響を受け、自動車関連、精密機械関連の輸送が最悪の状況。建築資材や食料品関係の仕事でなんとか繋いでいる。
一般乗用旅客自動車運送業	毎日の売上が戻りつつあるところに、感染力の高いデルタ株が拡大し、栃木県も8月8日から31日までまんえん防止策が決定し、今後の動向が心配なところ。